

とき

vol.27

市の花「ツバキ」で まちおこしを



松浦福島つばき会の佐木茂会長は、「ツバキをPRしてまちおこしを」と、さまざまな活動を行っています。

佐木会長は、同会の前身となる「福島つばき愛好会」で、昭和42年の結成当初から会員として活動。旧福島町の町花に制定されたことをきっかけに、昭和49年に「福島つばき会」を結成。現在は、市町村合併に伴い「松浦福島つばき会」と改名し、福島町民を中心とした15人で活動を行っています。

同会では、ツバキのPRのために「福島つばき祭り」を毎年開催しており、今年で35回目。今回は、ツバキの展示や苗の販売、小・中学生の絵画や書の展示、共催の福島町観光協会（清田民広会長）のつばき油や石けんの販売などを行いました。また、ツバキの群生林がある初崎から土谷棚田までの区間でスタンプラリーも行い、2日間で約2,000人の来場者がありました。同会では他にも、ツバキを増やすために、自生しているツバキを見つけ、その枝を挿し木などをして育てる「つばきウォッシング」や、挿し木や接ぎ木の研修会なども行っています。

佐木会長は「ツバキは、旧福島町では町花として親しまれてきたこともあり、道脇などでもよく見かけることができます。また、御厨町や調川町などでは『ひゃーし』（住居の周りに植えた高生け垣）になっていて、市内ではよく見ることが出来る花です。しかし、市民にとって身近にありすぎるせいか、市の花としてはまだ定着していないように感じます。派手さはないですが、日陰に多く、人目を忍んで咲くツバキには趣きがあります。市民の方にまずツバキの良さを知ってもらい、そして市外の方にも松浦市に来てもらって、山の中に入りいろいろな種類のツバキを見つけてもらおうなどして、ツバキの良さをPRする。それがまちおこしにつながればと思います」と話していました。



松浦福島つばき会
佐木茂 会長
(福島・里、73)



◀ 3月1、2日に福島町で開催された福島つばき祭りで、来場者に説明する佐木会長。

パイナップル？松ぼっくり？

3月中旬、今福公民館にパイナップルの形をした松ぼっくりがお目見えしました。

前田博司さん（今福・北東1）が3月上旬に、みかんの手入れにいった際、畑の横の松になっていたのを見つけたもの。3、4センチの松ぼっくりが30個固まって、直径12センチのボールのようになっています。

前田さんは、珍しいので枝を切って持って帰り自宅に飾っていましたが、松は縁起がいいし、珍しい形なので多くの人にてもらいたいと思い今福公民館に持って行ったものです。

公民館では「変わつとるねえ」「パイナップルのごたるね」などの声が聞かれ、利用者の目を楽しませています。



防火ポスターで教育委員会賞 浜崎結衣さん（星鹿・大石、11）

平成19年度防火ポスターコンクール（長崎県、長崎県少年婦人防火委員会主催）で、浜崎結衣さんの作品が教育委員会賞を受賞しました。

火災予防への関心を高めることなどを目的に、県内の小学生を対象に毎年募集しているもの。松浦地区消防組合で選ばれた10点を県に提出し、県下小学校37校から339点の応募の中から、審査の結果、3番目の賞にあたる教育委員会賞に浜崎さんの作品が選ばれたものです。

浜崎さんは「火は使い方間違えると怖いものだとすることをポスターにしました。賞をもらい、とてもうれしかったです」と話してくれました。



尾崎シヅ子さんと松尾フミさんが100歳

尾崎シヅ子さん（御厨・西木場）が2月20日に100歳の誕生日を迎えました。

尾崎さんは、明治41年生まれで、子どもからやしゃごまで合わせて42人います。若いころから農業に従事し、最近まで花を作り、販売していました。また、ゲートボールをするなど体を動かすことが好きで、93歳まで最高齢者として県のスポーツ大会にも出場していました。現在は、田中病院に入院中で、院内でテレビを見たり、入院中の患者さんと会話を楽しんだりしています。

この日久しぶりに帰宅し、友広市長からお祝いの言葉や花束を受け取った尾崎さんは、「好き嫌いなくなんでも食べ、家の中にいるよりも外に出て体を動かすことが健康の秘訣です。早く退院して、家で花作りなどを楽しみたいですね」と話していました。



これで、市内の100歳以上の人は17人になりました。

松尾フミさん（星鹿・青島）が3月16日に100歳の誕生日を迎えました。

松尾さんは、明治41年に生まれてから、ずっと青島で暮らしています。若いころは、米や麦を作ったり、イワシのいりこ製造をしたりしていました。現在は、青島の自宅で5人暮らし。子どもからやしゃごまで合わせて51人います。

最近、自宅でゆっくり過ごしており、テレビで相撲や野球観戦などをしています。

この日松尾さんは、家族や親せきから祝福を受け、友広市長からお祝いの言葉や花束を受けました。

「若い時、仕事をしっかりしたので体が丈夫になっていたことが長生の秘けつ」と話す松尾さんは、100歳を迎えられたことを喜んでいました。

